



〈サロン・あべの〉12月の出会い

気があるらしく時分時には行列
い、にぎやかに弾んでいきまし
た。

平成20年12月6日(土)〈サロ
ン・あべの〉12月の出会いは、JR

この日のメニューは、ランチ
コースです。まず、本日の前菜盛
り合わせですが、タコ
のルチア風サラダ仕立
て、つぎは、リゾット
かパスタのどちらかを
選びます。リゾット
は、小エビとキノコ。
パスタは、仔羊とパプ
リカのローマ風(トマ
トソース)とカマスの
コンフィとレタス(オ
イルソース)の2種類
があり、参加者はそれ
ぞれ選びました。そし
て本日のメインディッ
シュは、茶味豚肩ロー
スト(バルサミコソー

デザートにバナナケーキ、パン
ナコッタ、ジュラードの盛り合
わせとコーヒーまたは紅茶を楽
しみながら、みなさんにポスト
カードが配られ、「嬉しいこと・
楽しいこと」を書いていただき
ました。

師走に入ったこの日は、少し
肌寒く風がありました。良い
天気に恵まれ、なによりでした。
美味しいお料理とみなさんの
元気な笑顔にお腹も心も満足の
〈サロン・あべの〉12月の出会い
でした。

(参加者5名 山村貴司)



イタリアンで年忘れ昼食会

天王寺駅近くの「クッチーナ
ベッリーノ」で「イタリアンで年

ス)で本当に身が柔らかく、美味
しくいただきました。

「出会い、ふれあい、助け合い」
忘れ昼食会」でした。落ち着いた
雰囲気の良い家的なお店です。人

お料理が進む中、テーブルで
は、参加者同士で和やかに語ら

〈サロン・あべの〉12月恒例の
昼食会に参加くださった方々に、
今年を振り返って「嬉しいこと・
楽しいこと」あるいは「感じられ
たこと」などいろいろ書いてい
ただきました。

○今年を振り返って

加賀谷 正

（サロン・あべの）の方は、仕事との板ばさみで土曜日でも仕事の日が多く、運営委員会や例会に参加できない日が多くなってしまいました。来年もこの状態が続くそうです。

仕事は部署が変わって3カ月目で今年の新年が始まり、それなりに成長した1年でした。

来年は柱になれるよう精進しようと思つています。

今日の店は、世の中が不景気の中で、どこへ行く風で、大変繁盛している店でした。特に女性に受け入れられたようで周りは女性ばかりでした。味は良かったです。

○楽しい出会い

富田 慶子

毎年12月第1土曜日には、（サ

ロン・あべの）のお食事が開催

されます。秋口になると、どこか

美味しいお店はないか、珍しい所はないかと探し始めます。今年

阿倍野の近鉄百貨店の南裏にあるフープのイベント広場で集合

して、そこから一筋南に下がった所にあるイタリアンのお店に行

きました。人気の店らしく入り口には入店を待つ人が並んでいま

したが、予約をしていたので人をかき分けて店内の指定席に落ち

着きました。明るく楽しい雰囲気

に満たされた店内で、美味しい料理をいただきながらの会話は、

気の置けないサロンなればこそ

の良さを感じました。この1年、いろいろなことがありましたが、

こうして集まり出会えたことが

幸せと思える時間を過しました。ご参加くださった皆様、また不

感謝申し上げます。新年もどうぞ

よろしくお願い申し上げます。

○今年を振り返って

平岡 太

今回初めて、食事会に参加いたしました。イタリア料理を十

分楽しみながら、今年はどうな

年だったかを考えますと、ま、良くもなく悪くもなく（？）普通の

年だったかもしれないかと思う

今日この頃です。あ、そうそう仕事

中、少し腰を痛めたことが悪い

ことだったですね。来年も普通の

生活を送りながら少しだけ良いことがあればいいですね。

鬼に笑われたいようにしなければなりませんね。（え？ 笑いませんか。こりやまた失礼しました）

今年も（サロン・あべの）の忘

年会がやってきました。1年は

本当に早く、あつという間に過ぎてしまいます。サロンの忘年

会も前よりは、参加する人が少なくなりまし

た。また、来年1年間（サロン・あべの）に参加させていただきま

す。

○12月の出会いに参加して

山村 貴司

12月のサロンの出会いに参加して、おいしいイタリアンと参加者の元気な顔を見ることができ、良かったです。

師走に入り、冬一番の寒さが始まりましたが、温かい時間を過すことができました。

ありがとうございます。

来年が良い年になりますように。みなさんの元気なお顔がみ

れますように。

○1年を振り返って

倭 栄司

毎年12月第1土曜日には、（サ

絵がうたう、絵とうたう。



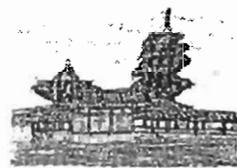
汽車ぽっぽ。陸蒸気、汽車、Steam Locomotiveの頭文字をとってSL、蒸気機関車など呼び方はいろいろですが、蒸気機関車というのが、雰囲気的にしっくりくるような気がします。石炭を炊きながら、火と水の力で煙を吐いて一生懸命に走る、そこに生き物であるかのような息づかいを感じます。蒸気機関は産業革命の原動力となった人類の偉大な科学遺産。そのシンボルであるSLは文化財です。ところが、旧国鉄は昭和35年、「無煙化」を旗印にした動力近代化計画をスタートさせ、電化とディーゼル化を推し進めました。昭和50年にはすべての蒸気機関車が営業運転から引退しました。でも、きかんしゃトーマスや機関車やえもんは今も現役です。



汽車。リズムは軽やかで爽快、平地を走る汽車のスピードを連想させて気持ちよく、タイトルこそ「汽車」ですが、汽車そのものを描写する歌詞はありません。汽車から見た風景、森や林や田や畑、窓外の景色が走るほどにつぎつぎに移り変わり、まるで車両全部がこの歌になって楽しんでいるような、胸がワクワクするようなうれしい気分が味わえ、汽車の旅の爽快感がいっぱいに伝わってきます。発表されたのは明治45年。その風景は、今も変わらず、ふるさとの原風景として残っているところもあり、汽車が電車で代わった現代でも変わらない、世代を超えた共通体験を歌っているように思えます。昭和の初め、翻訳されて中国に渡り、今も唄われていると聞きます。



汽車ポッポ。昭和13年、誕生当初の題名は「兵隊さんの汽車」でした。リズム・和音構成などの類似から、シューベルトの「軍隊行進曲」を参考に作曲されたという話は有名です。1番の歌詞の後半は、僕らも手に手に 日の丸の 旗をふりふり 送らしましょう 万歳 万歳 万歳 兵隊さん 兵隊さん 万々歳 というもので、駅のホームで戦地に赴く兵士を歡送する内容でした。勇ましく出陣する姿に蒸気機関車が後押しするような光景を連想させます。終戦直後、歌詞が軍国主義的であるとGHQからクレームがつき、昭和20年、NHKラジオの紅白音楽試合（今の紅白歌合戦）から平和な日本にふさわしい曲として、現在の題名・歌詞に改作されました。



鉄道唱歌。明治22年に東海道線の開通を機に鉄道はどんどん作られ、各鉄道には、歌が作られ沿線の地理や歴史、民話や伝説、名産品の紹介を折り込んだ歌詞が駅ごとにいっぱい作られました。地理教育鉄道唱歌第1集が出版されたのが明治33年。その名の通り、起点の駅から終点の駅までを詠んだものですが、名所旧跡への寄り道が目立ち、本来東海道本線筋ではない鎌倉に大船で乗り換えて立ち寄りたり、京都では、10番以上を費やして名所の紹介しているなど、全体が旅行記仕立てになっています。このメロディーは、国鉄時代から特急・急行列車の車内放送の前に流す車内チャイムのひとつとして使用されていました。JRになってからも随所で使われています。



かもつれっひゃ。ガッチャン 貨物列車の連結する音が操車場に響きます。到着線についた貨車は順に転送線に送られ、多数の分岐器を経て目的の仕訳線に送られます。コンピューター制御になる前の操車場では、貨車の突放や減速などは作業員が走る貨車の横につかまって調節するという危険なものでした。明治5年に鉄道が創業して後、国有化以降、日中戦争期、第2次世界大戦後の復興期、と増え続ける貨物需要と共に貨物列車は陸上輸送の主流となっていきました。ところが昭和30年代後半以降、モータリゼーションが進み、旅客輸送・貨物輸送いづれにおいても自動車が台頭し、特に貨物における鉄道輸送量は大きく減少していきました。

童謡♪絵はがき・汽車

■5枚1組 ¥180

52

邦子、 ..ん歳の手習い。



クリストファー氏の自立生活②

1988年、筋ジストロフィーの重度障害をもつクリストファーさんは、アメリカのボストンから遠く離れたカリフォルニア州バークレー市で自立生活をしながら、大学生を送っていました。今回は、自立生活を支える介護についての彼の考えをご紹介します。

当時クリストファーさんは、7人(女2人、男5人)の介助者を雇っていました。介助者は大学の障害者学生のための介助者紹介で探

した人たちです。彼は、「最初に介助者と面接した時に、その介助者とうまくやっていけるかどうか判断する能力が大切です。しかし、それでも雇用してから辞めさせなければならぬ場合はスムーズに辞めさせられることも大切です」と語っています。しかし、介助者を解雇することは、クリストファーさんにとっても勇気のいることです。最初の2週間を試験期間として採用するかどうかを決めるようにしているということですが、採用後は言いにくいらしいです。

介助者とうまくやっていくためには障害者側の努力も必要で、「介助者を公平で公正に扱うことを心がけ、自分のいいたいことを全部言わないようにしている」また、「介助者の中には友達もいるが、友達でない人とも最低今をうまくやっていくことを考えなくてはならない」と彼は語っています。彼が介助者を辞めさせる理由としては、1番目には時間通りに来ないこと、2番目には性格の不一致、3番目にはこういうこともやりません、ああいうこともやりませんと口だけで、実際にはやってほしい時にはやってくれないこ

とを挙げています。また、物を盗まれたりする時に、そういうことに気づいた時には、すぐ辞めさせることが大切だそうで、幸運なことに彼の場合は1度経験しただけです。しかし、彼の知り合いで、不動産の会社をしている障害者は裕福で、家にいろいろなものがあるので、そういうものを盗んでいく人も多く、それが1番の辞めさせる理由だということとです。

彼にとつていい介護者とは、「物理的に仕事をきちんとしてくれること。それができれば、何も文句はない」ということです。彼は、普段はアテンダントが来てくれる時間にあわせて自分の生活を組み、スケジュールをたてるようにしています。その代わり何か特別なことがある場合は、介助者に時間などを少し変えてもらうこともあるので、「介護時間や介護料にある程度自分の希望を入れてくれて融通性がきくと助かります」と語っています。

クリストファーさんは、障害が重度のために大学入学時に学生寮で自立するための指導を受けて生活できないのではないかと問題に

されましたが、スタッフは彼を受け入れることを決定しました。スタッフによると、クリストファーさんは学生寮の中でも1番重度の障害者でしたが、精神的に自立しており自立生活を指導するのが最も楽な学生だったということです。彼の介助者は平均6カ月から1年続いているということです。介助者は辞めた後でもいい友達のままです。介助者が通して人間関係も広がっているようです。彼の介助に対する冷静な判断力とともに、重度障害者の自立を受け入れるパークレーの街が彼の自立を可能にしているといえますが、介助の問題は日本でも共通の部分が多いように思います。

(定藤邦子)

ありがとうございました。

カンパ、切手・はがき・お茶菓子の寄贈など、ありがとうございました。

今西美奈子、岡賀寿子、長島伊津子、中村真典、紅田蘭、宮崎徹朗、森芳江、山本敏子、その他の方々。(敬称略)

晴れのち晴れ-124-

稲垣恵雄

□^{うし}丑年に思う

平成21年(2009年)の新しい年が明けた。誰もこの1年は良い年でありたいと願い、夢と希望に胸ふくらませて新春を迎えるのではないだろうか。

今年の干支は2番目の丑年である。丑年の方位は北北東を指し、時間は午前2時頃を表す。草木も眠る丑三つ時はといわれるようにこの時間はすべてが眠っているので1日中で最も静かで恐れられている。

物の本によると、丑年の丑とは季節でいうと1月、つまり睦月のことでむつみ合う、和合という意味だそうだ。そしてまた丑は紐を表し、寒冷の地にある種子が冷気に縛られながら芽生えの春に向けてじっと耐え忍んでいる姿を表しているという。

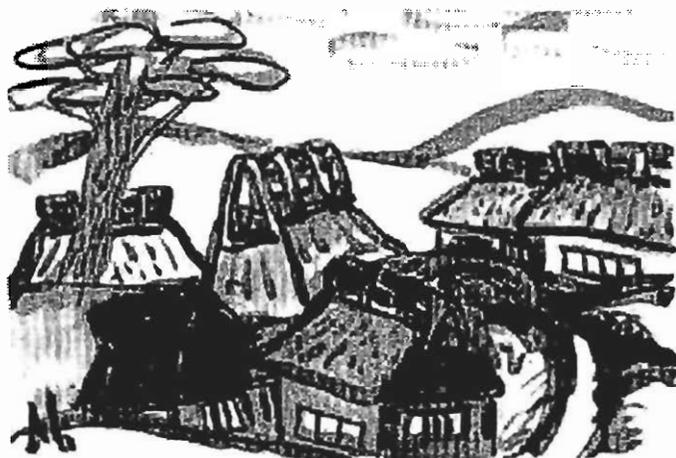
それだけに丑年生まれの人は強い精神力

と粘り強さをもった人が多いといわれるのもよく分かる。私の友人にも丑年生まれの何を何人か知っているが、確かに心身ともに活気に満ち、ファイトとパワーでどんな困難なことにも乗り越えている。気に入らないことや嫌いなことがあると、すぐ腹を立てる私にとって丑年生まれの人を大いに見習い、反省しなければならない。

ところで丑年の丑は牛に通じるが、牛といえばのっそりと歩き、何をやるものろいというイメージがある。私も牛と同じように動作がにぶくて時間がかかるが、たとえ牛歩の如くであってもしっかりと地に足をつけて着実にこの1年を歩んでいきたいと思っている。



当事者福祉論（中）



先月の続きである。当事者福祉論ということが可能なかどうか、単に、「当事者」と「福祉論」をつなげただけの言葉遊びに

すぎないのか、それが問題なのである。

「なんとか福祉論」と呼ばれるものは数多くあるが、ちよつと目新しいもの（もちろん私の目から見れば、ということである）をいくつかあげてみよう。

まず、すでに学会がつくられていて、さまざまな研究成果が蓄積されつつある新しい福祉分野としては、「美容福祉」「居住福祉」「玩具福祉」「感性福祉」などがある。それぞれ美しく生きること、安心して住むこと、楽しくおもちやで遊ぶこと、豊かな感性をもつて生活できることを援助するために研究するのだろう、と思う。

国内に学会はないようだが（外国にはあるそうだ）、「動物福祉論」という授業は、かなり多くの日本の大学で開かれている。インターネットでカリキュラムを見てみると、たとえば「食用家畜、伴侶動物、使役動物、実験動物などを代表として取り上げ、人間と動物との様々なかかわり合いを

整理し、その相互関係のあるべき姿について考察していく」（二）と書いてある。食べられている牛や豚の「福祉」を学問的に考えている人がいるとは、不勉強で私は知らなかった。動物福祉論を細分すれば、「家畜福祉論」「ペット福祉論」などができそうである。

では「植物福祉論」があるのかと調べてみたら、あった。食べられているリンゴやミカンの福祉を考えているのかなと思つたら、そうではなかった。そうではなく、植物による人間の癒しを考えるものらしい。まだ一般的ではないが、専門学校で「植物福祉コース」を設けているところがある（二）。

ここまでインターネットで数時間かけて調べてみたのだが、「なんとか福祉論」は意外に少ないというのが私の実感である。

やや専門的に言えば、上のさまざまな福祉は、社会福祉の中の新しい分野として言われているもの、福祉と異なるものとの複合であるもの、従来の社会福祉とはあまり関係がないものの三つに分けられるよう

お知らせ

<サロン・あべの>2月の出会い

内容…パパの子育て

～育児休暇を利用して～

お客さま…河元義和さん

日時…2月21日(土)午後1時～4時

場所…育徳コミュニティーセンター2階
研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL. 06-6621-1901

最寄り駅＝

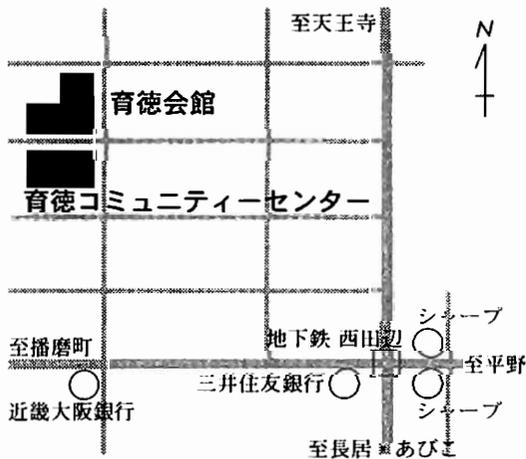
地下鉄御堂筋線「西田辺」(エレベーター有)下車すぐ

会費…なし

<サロン・あべの>2月の出会いは、「市民フォーラムおおさか」の協働事業として参加しています。

問い合わせ先…

TEL.06-6691-1028 (富田慶子)



だ。

さて、本題の当事者福祉論であるが、これは社会福祉の新しい一分野として提唱したいのである。何か他の学問分野との複合ではないし、従来の社会福祉と無関係なものでもない。

当事者は、いままで社会福祉の「対象者」と呼ばれ、受け身の立場にあると理解されてきた。「受益者」とか「社会的弱者」と呼ばれたこともある。

しかし、社会福祉が社会の仕組みを使っ

て人間の福祉を築いていく試みであるとすれば、社会福祉の専門職や、国や自治体の社会福祉の制度が成立する以前から社会福祉はあったのである。

そのような福祉の原点は誰によって担われていたかというところ、それは当事者である。すなわち自らの困難を自らが作った社会的な仕組みによって解決しようとしていた。当事者福祉はその原点に戻って考えよ

うとするものである。

というところで、またまた字数が尽きた。続きは来月に。

(知)

注(一)帯広畜産大学のホームページより。
注(二)専門学校エクセレンスのホームページより。

「M a i s ウ ェ ー デ ン 留 学 記」 は お 休 み で

美智子のこんな話

岸田美智子

地域取り組みへ1歩前進！

あけましておめでとうございます。

昨年は皆様にとつてどんな年だったでしょうか？ 昨年1年を表す漢字は「変」だそうで、食品偽装、秋葉原の通り魔事件、数々のひき逃げ事件などと、命を軽く感じさせてしまう事件が多くありましたね。また、明るいニュースではノーベル賞の受賞者が日本から3人出ました。

昨年のあいえる協会の動きとしては、福祉ホームから1人暮らしに移られた方、施設から1人暮らしされた方、施設から福祉ホームに入居された方の3名の自立生活が実現できました。

そして、作業所から1昨年の11月に新体系に移行した、ライフネットワーク生活介護事業所の安定した運営を目指して頑張ってきた1年でしたし、職員研修の体制も新しく作り、まいどの障害者スタッフが中心となって研修会を持ち、あいえるの仲間作りとは一体なんなのか？ をテーマに行いました。

また、地域では各区に障害者自立支援協議会が動き出して、まいどがある住吉区の住吉区地域自立支援協議会においては、まいどメソッドも事務局を担い、社会資源マップ作りや、住吉区内の障害者の実態調査、事業所連絡会などにも取り組み始めています。

今年が障害者自立支援法の見直しの年でもあるので、3月頃にその動きをいち早く情報提供していきたいこともあり、相談会を自立支援協議会として開いていく予定です。このような自立支援協議会の活動を通して、どろんどろん地域の障害者の方とも出会っていきたくと思っています。

重度障害者がどんなことで困っているのか、またどのような社会資源があれば入所施設に入らなくても生活していけるのかを、明

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

らかにしていく1年にしていきたいと思っています。

その他にもヘルパー不足の問題に取り組むために、大学や専門学校への講演活動に取り組んだり、他団体とも協力しヘルパー派遣事業所などの障害者関係の事業所の事業所連絡会の立ち上げにも取り組み、より豊かな障害者の生活を実現できるように、あいえる協会のメンバーが一丸となって取り組んでいきたくと思っています。

今年もどうぞよろしくお願ひします。

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で「サロン・あべの」紙第270号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 「サロン・あべの」紙は、第1号より第270号までそろっています。
- (b) 「サロン・あべの」十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぼ」放送「くサロン・あべの」平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳DJ)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

私らしさを伝える
サロンの一筆箋

普段はメールや携帯電話でコミュニケーションを取る人も、ここはひとつ手間をかけよう、というときがある。
そんなとき、その人らしさを伝える、サロンの一筆箋。

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴一五〇円



2月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

場 所：生野区在宅サービスセンター
「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協（ボランティア・ビュー
ロー）☎06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎06-6757-8574

■「サロン淀川」2月の出会い

日 時：2月15日（日）午後1時30分～4時
内 容：いろいろな朗読のかたちパート5～花～
楚々と一輪、そして八重咲き、朗読の世
界に自分たちの花を咲かせます。
ゲ ス ト：「こもれび」
淀川朗読ボランティアグループ
会 費：なし
場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー）☎06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」2月の出会い

日 時：2月28日（土）13時30分～15時30分
内 容：世界62カ国、約13,000点に及ぶ貯金箱
コレクションの中から約2,500点を常設
展示。質量とも日本一、世界でも最大級
の貯金箱博物館
集合場所と時間：
阪神電車「尼崎駅」西改札前に午後1時30分
場 所：世界の貯金箱博物館
[http://www.amashin.co.jp/sekai/
index.htm](http://www.amashin.co.jp/sekai/index.htm)
会 費：なし
問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

■サロン「アイ」2月の出会い

日 時：2月14日（土）午後1時30分～4時
内 容：エコを考えよう
出 演 者：中山一徳（かずのり）氏
生野区社協ボランティアコーディネーター
会 費：なし

■「サロン・にし」2月の出会い

日 時：2月14日（土）午後2時～4時
内 容：バルーンアートを楽しもう！
会 費：なし
場 所：西区在宅サービスセンター
「にしながほり」
大阪市西区新町4-5-14
☎06-6539-8075
問い合わせ先：宮脇淳 ☎090-3949-6973

■《てくてく・すみよし》2月の出会い

日 時：2月14日（土）午前11時、現地集合
内 容：あけましておめでとう
場 所：平野郷屋敷
大阪市平野区加美安鞍作1-3-19
☎06-6796-0728
会 費：2000円
申し込み締切：2月9日（月）
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」2月の出会い

日 時：2月1日（日）午後1時30分～4時
内 容：「美人の部屋」あれこれ
ゲ ス ト：池田美人氏（「サロンつるみ」代表）
場 所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
会 費：なし
問い合わせ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）
奥井 ☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」2月の出会いはお休みです

<サロン・あべの>VOL. 271 発行：平成21（2009）年1月17日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：<http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/> 「サロン あべの」でも検索できます